

# 伝統の舞で際立つ祭事

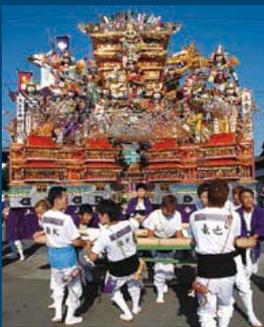
10月14日-15日

## 金田稲荷神社神幸祭

**各** 地区でイメージカラーに合わせた旗が、秋風にひるがえる。地元では山笠の飾り付けと囃子の練習に余念がない。10月14日、金田稲荷神社神幸祭初日。わかりやすく言えば、盆正月にも会えない、遠く離れた友がこの日のためだけに帰ってくる。そういう祭りである。

1200年近い歴史がある稲荷神社、境内には銀杏の原木が数本ある。戦国時代にこの神社が焼かれた際、御神体を銀杏の根元に埋めて難を逃れ、後に再建したという。祭りの開幕を飾る獅子舞は、社殿とおよそ正面にそびえる銀杏との間で舞われる。昼過ぎに山笠6基と、そろいの法被に身を包んだ祭り人が、続々と神社前に集まってきた。金田一区伝統芸能保存会による獅子舞が、ここで盛大に奉納された。

まもなくして神輿が御旅所までの「お下り」につく。御旅所では巫女が舞い、獅子が舞う。翌日の「お上り」も同じよう奉納される。神幸祭は勇壮な山笠に目が行きがちだが、この祭りは、数百年の伝統を守る舞が彩り、互いを際立たせていく。



【上金田】 地元の獅子舞披露で勢いに乗る上金田。作り込まれた開きが美しい。



【一区】「祭りで角が立たないように」と区長から「豆腐渡し」が行われ、いざ出発。



### 静と動、厳かに



【神事】獅子や巫女、愛らしい稚児たちも舞う神幸祭。山笠が集まる鳥居前も参道も、人であふれかえった。



【六区】真っ赤な炎が燃えさかる本能寺の変。そろいの法被も赤く燃えさがる。



【平原】豪華絢爛で金細工が細やかな平原は、見上げるほどの高さが特長。



【宝見】近づけば近づくほど迫力満点。みんなの目を引く巨大な鬼はなんと手作り。



【町部】地元商店街をさっそうと行く。鮮やかなブルーのボンカンがきらめく。